

種名	オオマツヨイグサ Oenothera erythrosepala 				
	分類	被子植物双子葉植物綱アカバナ科	俗称		生活型 越年草
分布	:原産地は北アメリカ ヨーロッパで作り出された園芸品種 日本へは明治時代の初期に渡来 日本全国で野生化				
形態	花径は大きく、6～8センチくらいある。花弁はハート形で4枚ある。花の真ん中には柱頭が4つに裂けた長い雌しべがあり、その周りに8本の雄しべがある。 葉は細長い楕円形で、互い違いに生える(互生)。葉の先は尖り、縁にはぎざぎざ(鋸歯)がある。葉の裏面の葉脈上には毛が生える。				
類似種	メマツヨイグサ等				
生息場所	道ばた、荒れ地。				
繁殖	花期は 6～9 月、花は夕方に開き朝にはしぼむ黄色い一日花である。花の後にできる実はさく果(熟すると下部が裂け、種子が散布される果実)である。				
他生物との関係					
配慮のポイント					
引用文献:『ホームページみんなの花図鑑』を改変					